

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	Vendetta Maxx ベンデッタマックス	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.53	ΔRG	0.042	● ピン ★ PAP ✕ CG ● バランスホール	

テスト対象ボール

フレアーの幅: inch

PAP- ピンの距離 **5 1/4 inch**

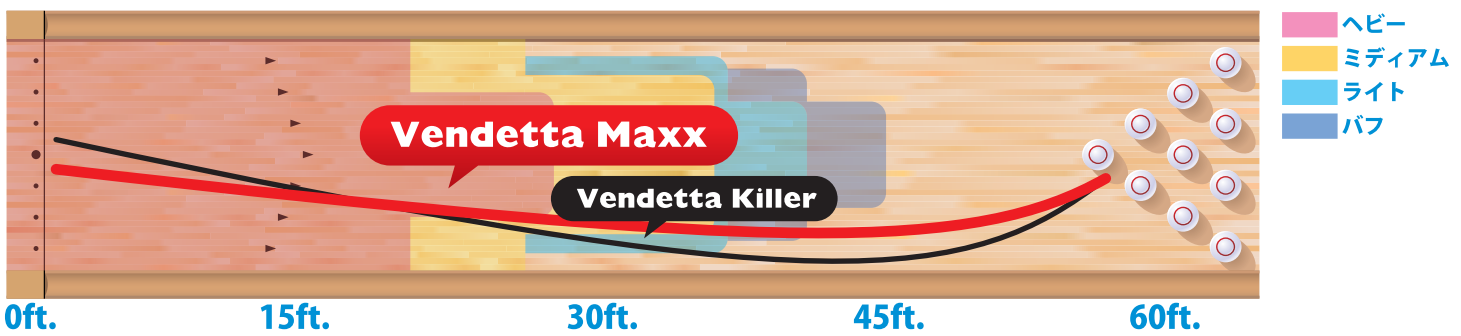
表面加工
 箱出し状態 加工
 ペーパー 番 ポリッシュ
 研磨剤

比較用ボール

ベンデッタキラー

PAP- ピンの距離 **5 1/2 inch**

表面加工
 箱出し状態 加工
 ペーパー 番 ポリッシュ
 研磨剤



ローリングタイプ (ローラー)
回転数 (回転)

レーンコンディション
 早い ▼ 遅い
 手前のコンディション
 オイル厚い ▼ オイル薄い
 奥のコンディション
 キャリーダウン ▼ かなり切れている

オイル長さ **41f**

メンテナンスマシン
 サンクション ツインスター シャトル 手引き
 その他

ボールの評価

スキッド長さ: 長い (★) 短い (●)

手前の転がり: よく転がる (★) 空スベリ (●)

バックエンドリアクション: SHARP (●) ARC (★)

曲がり幅: 大きい (●) 小さい (★)

ピンアクション: 良い (★) 悪い (●)

安定度: 良い (●) 悪い (★)

キャリーダウン: 強い (●) 弱い (★)

オイルキャッチ: 強い (●) 弱い (★)

マックスは表面加工がポリッシュ仕上げのため、キラーに比べスキッドを保つことができ、狙ったラインに向かいブレを感じずに投球できる。パーティクルをカバーストックに増量し、リアクション性能はマイルドなアーク。曲がり幅は決して大きくはないが最近の曲がるボールが主流の中、板目を大きく使用しないで投球できる数少ないスペックです。

また、手前のブレイク・ダウンしたコンディションには不向きで、手前のオイルがあり、バックエンドがドライでボールが過剰反応してしまうコンディションや現在主流のボールで出し戻すラインではトルクが足りず、なるべく板目を直線的に使いたいと考えているボウラーには有効に使用していただけるボールでしょう。

ピンアクションは前回発売されたベンデッタキラーと同じように、柔らかく絡み付くような粘っこいアクションをします。総合的な性能は、大きく出し戻すボールの性能ではなく、オイルがあっても直線的にラインを取る方が、このボールの性能は発揮しやすく、派手なアクションを抑えた、特にストロークタイプの方にはオススメです。

最近主流のボールはボールリアクション自体が大きく、インパクトのあるボールばかりですが、そのボール性能に戸惑い、レーンアジャスティングし切れないことも多いことでしょう。派手なパフォーマンスのボールではありませんが、だからこそ必要に応じ、持っておくボールなのかもしれません。

特記事項 オイル上をなるべく直線的に投球したい方、バックエンドの派手なリアクションの抑えたい、また安定したライン取りをしたい方にオススメです。